

# 【ねがいましては】

第54号

平成5年4月27日  
共和珠算学習塾

## 「私の家庭教師」

私の家にはやさしい家庭教師がいます。その先生の名前は「川原明美先生」、国語、算数、理科、社会、ピアノに習字、お料理なんでもござれ。私が困って頭を抱えていると、決して答えは教えてくれないけれど、良いヒントを出してくれます。私はそういう先生が大好きです。この間、二人で料理をしながら「ねこのまねをしたおよめさん」の話をしていたら、先生が話に夢中になってしまい、大事な指先を野菜切り器で削ってしまいました。それからというものの、野菜切り器は私が担当することになりました。これでは家庭科の先生は失格かな？でも、その日のマカロニサラダは一味違つてとてもおいしかった。

そんなそそっかしい先生でもピアノは名人でどんなに難しい曲でもスラスラとひいてしまいます。だから、私が魂を入れずにピアノをひいていると先生は「やる気がないのなら時間が無駄だからやめましょう」と言って鬼のように怒ります。

しかし休みの日になると、いろいろな所に連れて行ってくれて自然のお勉強をさせてくれるのです。今月の二十日、久しぶりに晴れた日曜日のことです。急に「日本民家園に行こう」と、先生が言いだし、お弁当を作つて出かけました。

日本の伝統工芸を守つていらっしゃる七十七歳のおじいさんに出会いました。藁（わら）でキリンや犬を作つたり、棕櫚（しゅろ）の葉で本物そっくりのバッタを作つたり、それは見事な手さばきでした。

私はおじいさんの弟子にしてもらいたいと思いました。日本に古くから伝わる工芸を、今もなお残そうと努力をしているおじいさんに会うチャンスを与えてくれた、この世でたつた一人の家庭教師がとっても好きです。

私もいつの日かやさしい明るい先生になれるように、色々なことを学んでがんばりたいと思います。だから、この世でたつた一人の私の家庭教師のおかあさん。楽しみに待つていてください。

この作品はMちゃんのお母さんからお借りした（朝日新聞社刊、水野茂一著「公立学校はよみがえる」）より一部変更して引用させていただきました。この作文の作者は小学三年生、親子間のあたたかい心のつながりが感じられます。この子の場合、お母さん＝先生＝家庭教師、すべて同一になっています。おそらく学校の先生もきっと友だちのような存在で、心はいつも温かさで満ちているように思えます。

さて、これを読みいただいているおかあさんご自身、きょう一日お子さんにとっての家庭教師でいらされたでしょうか？ドジでおっちょこちょいの家庭教師を私は推薦します。

★前回お知らせしました「お母さんの勉強室」は、参加者1名と、大失敗に終わりました。が、1対1でお話をさせていただき、私自身は大変勉強になりました。どうやら「お母さんが学校の勉強をする」の1文が大拒絶反応をもたらしたものと推測させていただきました。これに懲りず第2弾を予定いたしました。

日時・・・5月8日（土）午後2時～4時、内容は「子どもたちから見た母の理想像」など、子どもたちからのアンケート等を参考にお話しできればと思います。

## ☆5月の予定

8日（土）ミニ・デイキャンプ・・・毎年夏行われるキャンプで作る、栗田風シーフードカレーを、みんなで作つて食べてみよう、という計画です。

当日午後1時より店開きです。お弁当箱にご飯だけは持つてきてください。前もってアルバイターを募集しますのでよろしく！

15日（土）検定試験申し込み締め切り

29日（土）4～10級検定試験 当教室

30日（日）3級以上検定・中央商業高校